

現地レポート／ 中宮 賢樹（物理科学研究科 宇宙科学専攻）

派遣先： ミシガン、米国

海外派遣先機関名： University of Michigan

派遣期間： 2006年8月20日～2006年11月16日

2006年10月12日報告分

授業・研究の進捗状況

（授業の登録の有無／無。有の場合：単位）

最初の1週間は米国の学会に参加して、これまで行なってきた研究（太陽・地球の重力と遠心力が釣り合う点を出発点とした宇宙探査機の地球重力圏脱出軌道についての考察）の発表を行なった。また、学会会場で、今回の受入教官である University of Michigan（以下UM）の Scheeres 氏と今後について話し合いを行なった。

UMでは、これまでの研究と対称的な、目標天体への到着軌道のダイナミクスについて考察を行なうことになり、9月はその基本構造について学んだ。また9月末には、今回の海外派遣の成果を来年1月に行なわれる米国宇宙航空学会で発表するため、Abstractを提出した。

授業の登録は行っていないが、いくつかの授業を見学という形で学生に交じって聴講している。



- UMのランドマークの時計台 -



- UM航空学科研究棟のパネル -

生活関連状況

家具付きのアパートを大学の事務所に依頼していたのだが、実際にアパートに着いてみると家具はなく、最初の1週間はエアベッドで暮らすはめになった。他の件でも感じた事だが、こちらの事務所は日本と違ってきっちりとしていなく、何度も確認をする必要性を感じた。

UMがある Ann Arbor は、のどかな学生街であり治安は非常に良い。しかし、Ann Arbor を少し離れると犯罪率が高く有名な Detroit 等の街があり、注意が必要である。

気候に関しては、Ann Arbor は高緯度に位置するため気温は日本よりも低く、予想していた以上に寒い。しかも、今年は異常気象らしく、10月中旬にして雪が降るほどである。



- アパートの外観 -



- アパートの近くで鹿が頻繁に出没 -

その他報告すべき事項

渡米時期がロンドンのテロ未遂事件直後ということもあり、成田空港での検査はかなり厳しかった。しかし、旅行代理店が言うほど、早めに成田空港に行く必要はないと感じた。

アメリカ国内の空路移動では、手荷物が多かったせいか、運輸保安局の取り調べを受けた。スーツケースの細部までチェックされたが、今回はビザを取得して来ているので、その内容を説明したらすんなりと通してくれた。